

# 生活者ネット こくぶんじ No.171 2024年1月

発行/国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者/田中由紀  
連絡先/〒185-0024 国分寺市泉町3-33-16 西国分寺ハイツ103  
TEL:042-328-1864 FAX:042-328-1878  
http://kokubunji.seikatsusha.me/ E-mail:kokubunji@seikatsusha.net



国分寺市議会議員  
たかせ  
高瀬かおる



国分寺市議会議員  
こさか  
小坂まさ代



国分寺市議会議員  
まつおか  
松岡まり

## ようやく策定される「国分寺市ゼロカーボン行動計画」

2011年3月の東日本大震災に伴い福島第一原発の事故がおきました。それ以来、原子力から脱却し再生可能エネルギーに転換する視点で、市民・事業者・行政が協力するエネルギービジョン(地球温暖化防止行動計画地域版)の策定を提案し続けてきました。10年以上を経て2024年3月に「国分寺市ゼロカーボン行動計画」として策定されます。計画の期間は、2024年度から2030年度までの7年間で。

この間にも地球温暖化はすすみ、酷暑や世界で頻発する山火事など地球規模での気候危機が急速にすすんでいると実感します。地球環境問題は動植物の生態や人間の健康にも大きく影響し、待たなしの状況です。

市では、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざし、中期目標として2030年度までに、2013年度比で50%削減することを掲げました。達成には、市民・事業者・行政が再生可能エネルギーへの転換や断熱化、緑や水など自然環境の回復と生物多様性の確保、ごみの発生抑制とプラスチックの使用削減など、多様な取組みを重ねていくことが重要です。中でも、みどり率の2030年度目標を、2018年度と同等の34.8%としていますが、年々多くの緑が減っていることを考えると緑を増やす対策がないと実現しません。緑と水辺を創出する野川の整備が必要です。早期の事業着手を求めています。(高瀬かおる)

## 国分寺ネット活動日誌

- 10月1日(日)野川の水質調査参加
- 10月3日(火)認知症の模擬演技体験講座参加
- 10月5日(木)お話し会「子どもの声を聴き、届ける子どもアドボカイト」実施
- 10月6日(金)予算要望づくりワークショップ実施
- 10月7日(土)ランチボックスの会参加
- 10月11日(水)フラワー遊説(国立駅)
- 10月19日(木)市民連合@国分寺のアピール活動参加
- 10月24日(火)まちづくりに関する3か年計画づくりワークショップ参加
- 10月29日(日)NO! PFAS 国分寺市民集会参加
- 11月1日(水)環境カフェ「プラスチックごみ」開催
- 11月5日(日)国分寺まつり参加
- 11月6日(月)学習会「国際基準からみたジェンダーギャップ」参加
- 11月7日(火)お話し会「子どもと暮らしと防災」実施/都政フォーラム「神宮外苑の樹木 まちづくり」参加
- 11月8日(水)市民懇談「マサーヨがさく」実施
- 11月12日(日)市民懇談「マサーヨがさく」実施/青少年育成南地区委員会「子どものための防災イベント」ボランティア参加
- 11月13日(月)朝遊説(西国分寺駅)/学習会「プラスチック廃棄物について」参加/大和市終活支援視察
- 11月18日(土)「絶滅危惧種が国分寺にいる」パート2実施/全国市民政治ネットワーク交流集会参加
- 11月19日(日)市民連合@国分寺のアピール活動参加
- 11月22日(水)水再生センター視察
- 11月26日(日)国分寺市「人権のつどい」参加
- 12月15日(金)全国コミュニティスクール研究大会オンライン参加
- 12月16日(土)一般廃棄物処理基本計画説明会参加
- 12月19日(火)市民連合@国分寺のアピール活動参加
- 12月23日(土)ゼロカーボン行動計画説明会参加
- 12月25日(月)第2次地域福祉計画・第2次健康増進計画・高齢者保健福祉計画・第4次障害者計画説明会参加
- 12月27日(水)アピール活動(国分寺駅・西国分寺駅・国立駅)

## 絶滅危惧種は国分寺にいる 身近な生物保全の最前線 part2 開催

久保田潤一さん(NPO法人birth自然環境マネジメント部長)に昨年に引き続き講師をお願いし、国分寺の地域特性と緑地環境や生物保全の状況を具体的な場所を示しながら具体的なお話を聞きました。

44種類もの絶滅危惧種がいる都立武蔵国分寺公園周辺は、この10年ほどの間に、図書館や公文書館、消防署、新庁舎の建設が相次いでいます。連続した緑や草地在り2.8haから0.1haに減少し、バッタや鳥類など生きものの生息地も奪われてしまいました。こうした環境変遷をわかりやすく数値的に評価し、悪化した地域の代わりに、市内の他の場所に緑を確保し、生きものが暮らせる環境をつくること、とても必要だということです。

国分寺市の最大の特徴は崖線があることです。また、現存している都有地やまちの中に事業者や個人が所有する自然地、企業などがもつ草地や樹林も湧水も自然の保全に大いに貢献しています。水と緑のまちをこれからも守っていくためには市民、行政そして企業が連携し、まち全体をネットワーク化し、生物多様性の戦略をたて行動計画を持つてすすめていくことが必要です。

講演後に会場に隣接する都立武蔵国分寺公園に移動し、噴水池とバタランド周辺でお話をききました。昨年と違って隣接地に新庁舎がバタランドを見下ろすように建てられています。その影響で緑や生き物の棲家が損なわれないよう、小さな虫の視点で人と生き物が共存できる方策を具体的に提案していきたいと思います。(加瀬よりえ)



## ひとこと提案から 市や都へ予算要望

今年是一般用に加え、子ども用を作成。子どもたちからは、公園でボール遊びができないことや遊ぶ場や居場所があまりないことなど、一般の方からは、PFASによる地下水汚染の心配や買い物や移動困難なことなど多くの意見をいただきました。これらをもとに生活クラブ運動グループ地域協議会で話し合い、要望書を作成し、12月20日に国分寺市へ提出しました。



ひとこと提案はこちらから

## 岩永やす代と行く

### 都立小平霊園の樹木葬見学会

継承者を必要とせず、環境の視点からも自然葬の人気が高まっています。多摩地域にある都立小平霊園樹木葬と一緒に見学しませんか？

●4月17日(水)10時から(予定)●

[申込み・問合せ]kita2@seikatsusha.net

## プラスチックの削減を 次世代の子どもたちが生きる 地球環境を守りたい

近年急速に進む気候危機や海洋汚染、生態系への悪影響などから、プラスチックに関する問題は人類共通の緊急の課題です。2022年4月1日には、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」(プラスチック新法)が施行され、新たなプラスチックの分別基準が設定されました。

### 新たな動き プラスチックを巡る

プラスチックは、身近な家庭・台所用品・家具、食品容器・包装、文具・おもちゃ類、電気・電子製品、パソコン・スマートフォン、スポーツ・レジャー用品、メガネ・コンタクトレンズをはじめ、生活を支える住宅建材、医療機器、乗り物、農・水産業用具などあらゆるものに使用されています。そして、プラスチックは生産にも廃棄にもCO<sub>2</sub>が排出され、地球温暖化にも影響しています。

プラスチックは、製品の設計

からプラスチック廃棄物の処理までにかかわる事業者・自治体・消費者が連携して、プラスチックの資源循環・削減について取り組んでいくことが求められています。生活の中で「えらんで、減らして、リサイクル」することで廃棄物を減量しなければなりません。

### 私たち一人ひとりの 暮らしから変えていく ことができる！

国分寺市のデータによると、燃やせないごみに混入しているプラスチック率及び比重は過去5年平均で36.1%、重量622トンとなっています。

これを分別して再資源化できれば、燃やせないごみも減らすことができます。

2024年4月1日から、これまでの容器包装プラスチックに加え、プラスチック100%でできている製品を毎週一回一括収集します。分別により減量・資源化をすすめる、一括収集によって安定した処理や再資源化が行えることや、処理を行うプラントでは発生するCO<sub>2</sub>を抑制できるようになります。

プラスチック用ごみ袋有料化は2024年6月1日からになります。ゴミ袋の価格はS袋(約5ℓ)5円、M袋(約10ℓ)10円、L袋(約20ℓ)20円、LL袋(約40ℓ)40円です。週に一度20リットル袋で出す場合、年間約1000円です。低所得層への配慮もあります。

また、リサイクル協力店の店舗拡大や、リサイクル品目を増やすことも必要です。これまで、市からの説明は不十分なところがありました。回収方法変更や分別方法、有料化について実施までにわかりやすく市民に知らせることが必要です。

## 今こそプラスチック 削減のための アクションを！

プラスチック製品は事業者が製造者責任がありますが、私たちが日常の暮らしの中で、プラスチック製品の利用を抑え、プラスチックの代替となる紙製・木製のものを使うことにより、製造側の生産抑制につながります。

過剰包装や利便性に慣れたライフスタイルを、一人ひとりが今一度見つめ直すことが必要ではないでしょうか。また、この世界共有の課題について、一緒に考え、情報交換する場を増やしていくことも大きな一歩です。プラスチック問題に関心を持ち、毎日の暮らしについて話し合い、行動してみませんか。

(松岡まり)



イタリアの100%生分解性&100%堆肥化可能なプラスチックレジ袋。日本でも普及してほしい